

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立川上小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

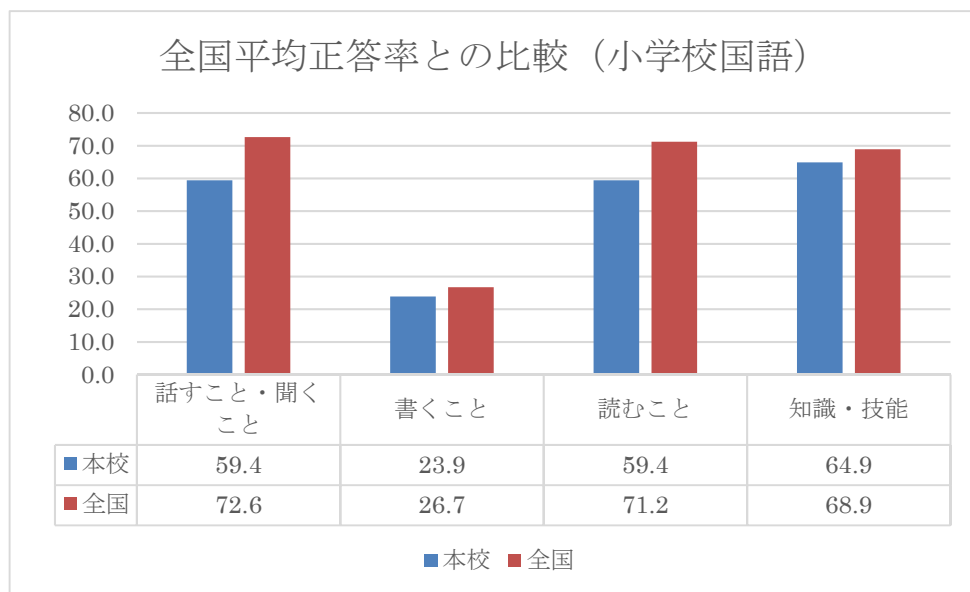
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

どの項目も全国平均より低い結果でした。「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、全国平均正答率を大きく下回っています。また、無解答率をみると、「書くこと」の項目で、全国平均より高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が4ポイント下回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率39.9%は、全国平均正答率11ポイントほど下回っており、苦手になっている児童が多くいます。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

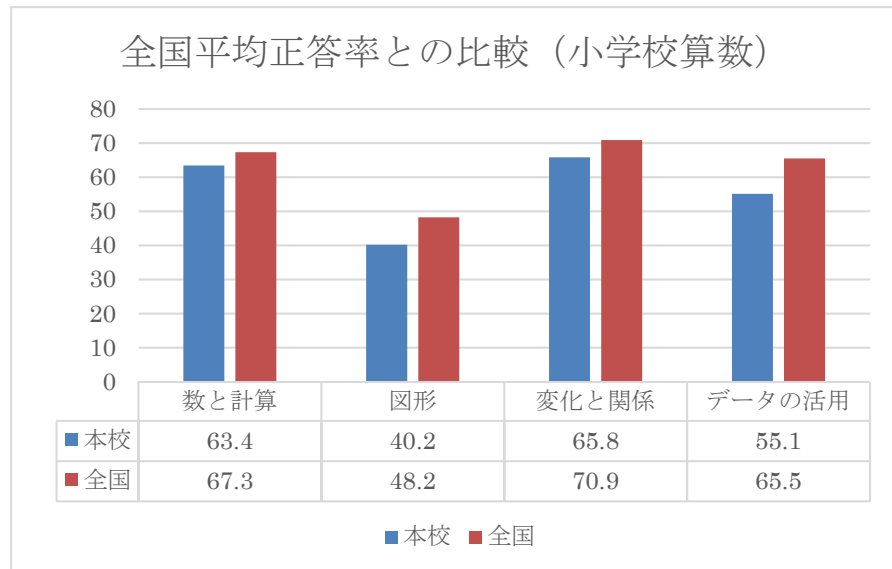
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く力を付けるために、条件を付けて書く機会を意図的に増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数(数学)



(1) 結果

どの項目も全国平均より低い結果でした。全ての領域で全国平均をやや下回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「図形」と「データの活用」で課題が見られました。データの読み取りにおいては、複数のグラフから違いを見出すことが十分にできていませんでした。これは、社会や理科においても、グラフを読むことが重要であるので、他教科との関連を図りながら力を付けていく必要があると捉えています。

今後、身近な問題を取り上げ、興味のある題材を用いて授業を行うことでやる気を出させて、粘り強く取り組む姿勢を培っていきたいと考えています。また、ICTを活用することで、考えるだけでは想像しにくいところを視覚的に見せることを通して、図形の意味や性質を考えることができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 授業中のノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	85.1%	83.7%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	25.5%	38.1%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	66.0%	55.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	48.9%	42.6%
将来の夢や目標を持っていますか。	66.0%	60.8%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	89.4%	75.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	68.1%	82.6%

朝食・起床については全国平均を上回っていますが、就寝について下回っています。生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。自己肯定感や自己目標の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	23.4%	28.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	2.1%	11.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	8.5%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	25.5%	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	44.7%	26.9%
「30分より少ない」	17.0%	11.4%
「全くしない」	2.1%	4.6%

家庭学習については全国平均よりやや下回っており、1時間未満の児童が6割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきますのでご家庭でもお声かけ下さい。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習(自学)についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。これから中学年にも少しずつ広げていきます。
- 学校では、読書の推奨をしたり、図書委員会を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。ご家庭でも、図書館や本屋に一緒に行くなど、読書の楽しさを共に味わうことをお勧めします。

【ご家庭では】

- 川上小では「川上っ子チャレンジ週間」を設定しています。この機会をとらえて、家庭と連携しながら規則正しい生活と家庭学習の定着を図りたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。お子さんが頑張ったとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。